

アジアの若者交流

「青年の家」まずハーリー体験

【豊見城】夏休み期間に日本やアジアなど16カ国の若者80人が沖縄に集い、さまざまな体験や共同生活を通して交流を深め、将来を担う人材の育成を目的とした「アジア青年の家2010」(主催・内閣府)のプログラムが本格的に始まった7日、豊見城市の豊崎美らSUNビーチでハーリー体験が行われた。

3回目を迎える今年のテーマは「考えよう！生命を支える水」。23日までの約20日間、中学3年から高校2年生までの若者らが名護市の万国津梁館や渡嘉敷島、伊江島などを回り、講義やフィールドワーク、沖縄の文化体験を通して地球が

抱える水問題について学ぶ。

ベトナムから参加したチー・ヤンさん(17)は「ハーリーは本当に面白かった。沖縄の人はみんなフレンドリー。文化をたくさん

学びたい」と笑顔。初参加の當銘菜津希さん(那覇国際1年)と伊敷三美さん(向陽2年)は「交流を深めながら各国の水の現状を知り、解決策を見いだしていきたい」と意欲を話した。



ハーリー競そうに勝利し喜ぶアジア各国からの参加者たち
 7日、豊見城市・豊崎美らSUNビーチ